

研究開発プログラム評価書

令和4年5月9日(月)
 建築研究所研究評価委員会
 委員長 加藤 信介

持続可能プログラム	年度評価	
評価項目ごとの評定(※1)	評定	全体委員会所見
(i) 成果・取組が国の方針や社会のニーズに適合しているか【妥当性の観点】(※3)	a	研究課題は、気候変動や資源エネルギー問題、人口減少の問題に対し、持続可能な住宅・建築・都市を実現するという観点から設定されており、研究課題の設定は適切と言える。 また、官民研究開発投資拡大プログラム(PRISM)といった外部資金を積極的に獲得・活用し、BIM活用や木材需要拡大など社会実装に向け研究を加速させている。 以上から、成果・取組は国の方針や社会のニーズに適合している。
(ii) 成果・取組が社会的価値の創出に貢献するものであるか【社会的・経済的観点】(※3)	a	建築物省エネルギー法関連の技術基準に関する研究は、我が国のエネルギー需給構造の改善や国際競争力の強化に資するなど、経済的価値の創出にも貢献する。また、中高層木造建築物の実現に向けた研究は、今後の木質系材料の利用拡大による新市場創出や良好な資源循環への貢献が期待できることから、社会的価値の創出にも寄与している。 この他にも、ドローンを活用した建築物の耐久性評価・診断技術に関する研究は、住宅・建築・都市ストック活用促進及びマネジメント技術の高度化に寄与する。BIM活用等の設計・施工マネジメント技術に関する研究は、今後懸念される担い手不足への対応や建築物の品質確保と適切な管理と利用に係る新たな価値の創出に資する。 以上から、成果・取組は社会的・経済的観点の双方から社会的価値の創出に貢献している。
(iii) 成果・取組が期待された時期に適切な形で創出・実施されているか【時間的観点】(※3)	a	当研究開発プログラムにおいて、研究開発成果を順次適切にとりまとめている。 令和3年度では、建築物省エネ法における評価方法、建築基準法等に基づく告示(建築物の定期調査報告)等に着実に結びついている。 以上から、成果・取組は期待された時期に適切な形で創出・実施されている。
(iv) 国内外の大学、民間事業者、研究開発機関との連携・協力等、効果的かつ効率的な研究開発の推進に向けた取組が適切かつ十分であるか	a	個別研究課題の内容に応じて、大学や民間事業者、研究開発機関と適切な役割分担のもと、共同研究を32件、共同研究者数45者で進めている。 令和3年度における海外との共同研究協定は27件となっており、国際的な交流や連携も進めている。 また、国のPRISMIについて外部資金を獲得し、他の民間事業者や研究開発機関と適切に連携体制を構築し、研究開発に取り組んでいる。 以上から、他機関との連携・協力の取組は順調に推移しており、それぞれの役割を果たし効率的に進めている。

<p>(v) 政策の企画立案や技術基準策定等に対する技術的支援が適切かつ十分に行われているか</p>	<p>a</p>	<p>建築物省エネルギー法や建築基準法等のため技術基準の策定を支援するとともに、木造建築物の中高層化やCLT活用に関する日本建築学会等関連団体における活動に参画し、学会基準・指針等の策定に貢献している。 国内外における有償の技術指導件数は283件となっており、依頼元のニーズに対して、適切に技術指導を実施している。 以上から、政策の企画立案や技術基準策定等に対する技術的支援が適切かつ十分に行われている。</p>
<p>(vi) 研究成果を適切な形でとりまとめ、関係学会での発表等による成果の普及を適切に行うとともに、社会から理解を得ていく取組を積極的に推進しているか</p>	<p>a</p>	<p>研究成果は、日本建築学会等の学術論文として投稿し発表している。論文の発表数は185件（うち査読付論文数は25件）となっている。 住宅・建築・都市の各分野における最新の研究動向を広く一般の方々に提供することを目的として建築研究所講演会を開催している。また、産学官連携した建築研究開発コンソーシアムの会合や、学識経験者や設計実務者を招いた政策研究大学院大学との共催シンポジウムにおいて、関連する最新研究を紹介している。 以上から、成果等の普及や社会から理解を得ていく取組を積極的に推進している。なお、今後、一般技術者にも有効な形で普及のあり方を検討することを期待したい。</p>
<p>全体評定（※2）</p>	<p>A</p>	

※1 評価区分（年度評価）

- a: 実施状況は適切であった
- b: 実施状況は概ね適切であった
- c: 実施状況は適切でなかった

※2 評価項目ごとに、a: 3点、b: 2点、c: 1点とし、算術平均の結果が一番近い数字に対応するABC（A: 3点、B: 2点、C: 1点）を全体評定とする

※3 (i)、(ii)、(iii)は評価点を2倍に加重したうえで、算術平均を算出する